

事例紹介 | 海運 | 代替燃料ロードマップ策定支援

背景・課題

- ◆ 海運業界においても2050年カーボンニュートラル(CN)を目指す企業が増加。当社としても同様な目標を打ち出す必要性を認識。
- ◆ 船舶燃料は、これまで主に重油を利用。一部でLNGが使われ始めている。一方で代替燃料としては、水素、アンモニア、バイオ燃料に加え、回収したCO2を使う合成メタノール・メタン等も候補となる状況。
- ◆ 代替燃料はコスト・技術・インフラの面で不確実性が高く、ロードマップを策定するために海運業界および代替燃料に精通したパートナーを探していた。

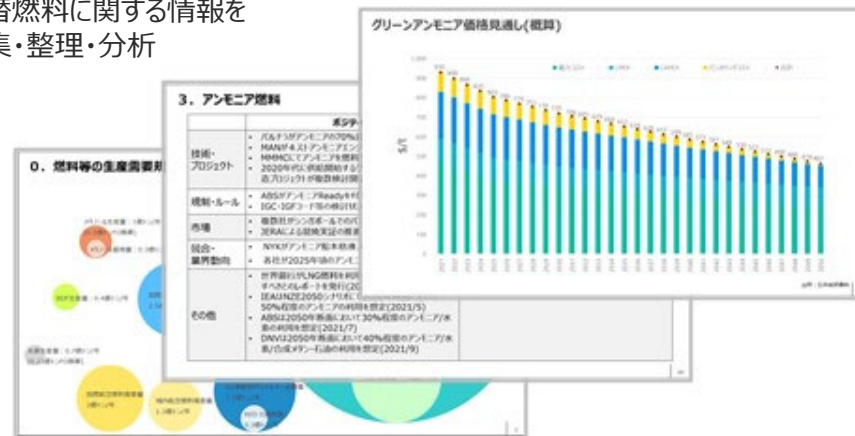
プロジェクト概要

- ◆ 代替燃料のコスト・技術・インフラに加えて、カーボンプライシングや荷主となる鉄鋼・自動車・化学・エネルギー業界の動向、競合他社の取り組み等、ロードマップ策定には考慮すべき要素が多数存在。
- ◆ これらの動向について、社内外での情報収集・整理した上で、不足する部分は追加的な分析を行い、最新の状況を取りまとめた。収集した情報を活用して議論・検討を実施。
- ◆ ロードマップの策定にあたっては、規制や荷動き、船体の大型化等の外部要因に加え、当社の船隊構成や荷主の動向等の内部要因もふまえて定量的に削減量を分析。ベースケースを基に削減を加速するシナリオなど、多数の選択肢についても検討。

実施成果

- ◆ 2050年カーボンニュートラルを達成する代替燃料ロードマップを策定。アンモニアを主要な代替燃料と想定し、2030年までの導入に向けてアクションプランを整理。
- ◆ ロードマップをベースとする2050年カーボンニュートラル目標を公表。これを契機に他社とのアライアンスや出資、共同検討の依頼が増加しており、当社のカーボンニュートラルへの取り組みは加速的に進展。

代替燃料に関する情報を収集・整理・分析



お客様概要

業種	海運
売上高	5,000億円以上
従業員数	5,000人以上
事業概要	資源、燃料、化学品、自動車等の輸送

担当コンサルタント



三木 優 みき ゆたか

プリンシパル/主席研究員



林 真寿 はやし まさとし

環境・エネルギー・資源戦略
コンサルタント



児堂 友士朗 ちごどう ゆうじろう

環境・エネルギー・資源戦略
コンサルタント